

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

(群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

○平成23年度第2回

テーマ：「図書館メディアとしての新聞 — その特性と活用 —」

日時：平成24年3月8日（木）13時30分～16時15分

場所：共愛学園前橋国際大学 1号館1101教室（チャペル）

参加者：28名（大学図書館17名、公共図書館8名、高校図書館3名）

講演：「図書館メディアとしての新聞 — その特性と活用 —」

（社）日本新聞協会 新聞教育文化部長兼NIE担当主管 長谷川 恵一 氏

【概要】2011年4月に、小学校で改訂学習指導要領が全面実施されて以来、言語力の充実に資する新聞の教材・資料としての価値が見直されています。12年4月からは、中学校でも新指導要領が実施されることになっており、小学校から大学まで学校現場で新聞があらためて注目されていますが、図書館にとって新聞は、毎日毎日届く資料であり、朝刊ばかりか夕刊も届く「手間のかかる資料」でもあり、この資料としてやや特殊な性格を持つ新聞資料に関して、新聞の専門図書館である「日本新聞協会資料室」と新聞博物館の併設施設「新聞ライブラリー」での遡及検索等も配慮した配架、保存方法についての説明がありました。

また、新聞メディアは、昨今、歴史上もっとも大きな変革の波に洗われているとの視点から、その具体的な事例について紹介されましたが、この変革は新聞に限った話ではなく、あらゆるメディアに及んでおり、図書館としてこうした変化にどう対応していけばよいのか、ソーシャル・ネットワーク・システムの展開等を例に、その方向性について言及されました。



(会場の1号館遠景、入口)



(長谷川講師)



(講演風景)

加者の意見等

講演終了後のアンケートからは、「NIE(Newspaper in Education)と学習指導要領の関係や具体的な実践事例の情報取得の方法等参考になった」、「新聞を読むことの大切さについて、大学の教員や教員を目指している学生にも今回の講演の内容を伝えたい」、「初年次教育で新聞を活用することが増えたので興味深く拝聴した」、「デジタル化についても今後、メリット、デメリットのことを考えていきたい」、などの意見等をいただきました。また、最近、アメリカでは、NIEのNが「Newspaper」ではなく「News」に置き換わってきているとの説明には興味深いものがありました。今回の研究会は、新聞をテーマとして取り上げたことから、調べ学習などでの活用の機会が多いと思われる学校図書館からの多数の参加者を期待しておりましたが、運悪く、当日が高等学校の後期日程試験に当たってしまい、実施日の選定に際しては、県内各図書館との事前調整の必要性を痛感するとともに深く反省させられました。